

3.2. 国有林土壤調査

(国有林土壤調査)

1. 試験担当者

本埠土じょう部長	橋 本 与 良 ほか
北海道支場造林部土じょう研究室長	原 田 洋 ほか
東北支場育林部長	山 谷 孝 一 ほか
四国支場育林部土じょう研究室長	河 田 弘 ほか
関西支場育林部土じょう研究室長	佐 萩 俊 ほか
九州支場育林部土じょう研究室長	鶴 孝 介 ほか

2. 試験目的

国有林土壤調査事業の推進およびその技術向上をはかること。また土壤調査成果の多角的利用を計るために調査成果の地域的ならびに全国的とりまとめ方法を検討する。

3. 昭和45年度の経過とえられた結果

1. 現地指導ならびに協議

北海道五局、秋田、東京、前橋、名古屋、熊本の各局について重点的に実施した。

2. 報告書の審査および土壤図印刷の指導

報告書の審査は14事業区を終了した。また各営林局で行なう土壤図印刷業務の図式の調整等技術的指導を行なつた。

3. 分析

低山帶褐色森林土、亜高山帶土壌、亜熱帶土約250点の化学分析を行なつた。

4. 母材鑑別

上記試料のうち代表断面試料約50点につき一次、二次鉱物組成の検討を行なつた。

5. 断面図集(Ⅲ)準備

亜熱帶土壌外11断面の写真撮影を行なつた。

6. 中、小縮尺土壤図編纂の検討

既往成果を用い1/5万、1/20万土壤図の部分的作成を行ない、各スケールに適合するリージェントの検討を加えた。

7. 表層グライ化土壌、湿性ボドゾル

特性、生成条件について検討を加えた。

4. 昭和46年度の試験計画

1. 現地指導ならびに協議

北海道5局、前橋、名古屋、熊本各局については重点的に継続実施する。他局については、成果とりまとめ、立地級、生産力調査等に関する指導を行なう。

2. 報告書の審査は 20 ~ 25 事業区分実施予定
- 3, 4. 分析, 母材選別は前年度未了分およびあらたに約 100 点について実施予定
5. 断面図集(Ⅲ)準備
5 ~ 10 断面の蒐集, 標準断面の特性と分析的に解明し, 印刷用原稿の作成にとりかかる。
6. 中, 小縮尺土壤図編纂の検討
 - (1) 1/200 万全国土壤図の試作を行なう。
 - (2) 1/20 万地域土壤図の試作を行なう。
7. 特殊土壤の分類
 - (1) 表層グライ化土壌, 濡性ポドゾルの特性解明, については継続実施する。
 - (2) 暗赤色土壌の特性解明, 細区分の検討を開始する。

国有林土壤調査

(特殊土壤の分類)

1. 試験担当者

本機土じょう部土じょう調査科土じょう第一研究室長 松井光瑠

2. 試験目的

国有林土壤調査の結果, ブナ帯において極めて造林成績の悪いポドゾル土壌のあることが明らかになり, その土壌の成因に不明の点が多いので, その生成要因を明らかにして, 対策を見出すと同時に分類上の位置づけを行なう必要が生じた。

これらの背景のもとに, 土壌の母材, 地形, 気候条件など生成因子の特徴を明らかにする。そのためには, 分布特性と, 土壌の現代性の検討を行なう。とくに水分環境に大きな特徴があると考えられるので, その面からの追究が中心となる。

3. 昭和 45 年度の経過とえられた結果

1. 濡性ポドゾルは標準的なポドゾルと次の点で相違があり生成要因を異にすることを確かめた。

- a) 粘土鉱物の層別分布
- b) 腐植酸かおよびフルボ酸の層別分布
- c) 2 酸鉄の層別分布

2. 2 酸鉄が表層部に多く, 表層からの還元現象が認められた。

3. 還元現象は鉄型混性ポドゾルと腐植型濡性ポドゾルとは差のあることが解った。

4. 昭和 46 年度の試験計画

1. 表層還元が起る操作を知るために, 現地土壌について 2 酸鉄の経時変化を追跡する。
2. この土壌と近縁な関係にある多腐植暗色の褐色森林土との諸性質の対比を行なう。
3. モデル実験による表層還元現象の追跡